

自己評価報告書

令和2年度 日本橋中学校 自己評価報告書							
学校（園）名：	日本橋中学校	所在地：	中央区東日本橋1-10-1				
校（園）長名：	平野 雅仁						
児童（生徒）数	379	学級数	11	教員数	20	職員数	23
1 重点目標の達成状況及び取組状況							
重点目標1							
「生徒一人一人を大切に学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。」							
学力向上に関しての取組の評価として、							
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍での授業の進み方、授業時数の確保、授業規律の徹底について10%ほど未回答が増えた。ただし、生徒の84%は、進み方に肯定的である。・授業内容等の質に関する部分では、教員、生徒は、80%を超える肯定的評価だが、保護者は約67%と低い数値。これは、休校中の課題の出し方等で改善を要するとの回答する保護者が約16%だったのも、理由として考えられる。・サプリノートの取組や家庭学習に関しては保護者の肯定的評価の割合が72%を超えている。ただし、生徒は54%にとどまっており、保護者は休校中の課題についての意見が多く寄せられた。生活面について家庭との連携を密にしたサプリノートとタブレットを活用した自学・自習の取組も進めたいと考えている。							
重点目標2							
「暴力やいじめがない豊かな関わり合いの中で、自己有用感や共生の心を育てる。」							
<ul style="list-style-type: none">・いじめ、不登校等問題行動の早期発見についての評価は、保護者77%、生徒87%とする回答である。いじめは未然防止できているとの評価が多いが、不登校の未然防止・早期解決は様々な要因がありC/D評価が0%となっている。今後も生徒一人一人を大切にされた対応をさらに進め、肯定的評価をさらに高めていきたい。わかりやすいアンケートの項目分けが必要である。・道徳科については、コロナ禍で話し合い活動ができない中、考える活動を多く取り入れた結果、生徒の93%がA/B評価で充実感を感じた。・運動会等の行事に関して、ほとんどが中止となったが、生徒の肯定的評価が74%あり休校から学校が再開したことが充実感として評価。教員は、充実した活動ができなかった。達成感を味わうことについて、C評価が41%となった。・委員会活動への取組では、生徒は肯定的な評価が約89%となり、コロナ禍においても活動ができたことを評価していた結果と考えている。							
重点目標3							
「学校生活を健康・安全に過ごすとともに、将来展望性をもたせる活動を充実させる。」							
<ul style="list-style-type: none">・新しい生活様式に合わせた、安全で規律ある集団の一員としての行動については、生徒保護者ともに95%から83%と肯定的評価が高く、新型コロナ感染症対策の下での活動を理解し、行動できたと考えている。・キャリア教育に関する設問は、生徒にとっては、例年90%以上の肯定的な回答で、充実した取組になっていたが、コロナ禍で否定的な回答が16%と今後の社会不安を表れ							

た。

- ・昼休みの体育館開放など運動機会の少ないと回答した生徒は 48%とコロナ禍の3密を避ける行動とともに活動的な行動の意識は低くなった。
- ・外部講師による将来展望性に関して、2.3年生はともに75%以上の肯定的な評価だった。今後も生き方のお手本となるアスリートや文化人の講演会等を開催する。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が80%を超えた項目は、

- ①教員の対応や言葉遣い(94.3%)
- ②学校の通知文(91.8%)
- ③基礎学力の定着への取組(86.8%)
- ④学習内容の工夫(84.9%)
- ⑤保護者の学校行事への参加のしやすさ(83.3%)
- ⑥規範意識や思いやりの心の育成(83.7%)
- ⑦生徒が学校への相談のしやすさ(85.4%)
- ⑧教員の生徒への接し方(82.3%)
- ⑨学校・家庭・地域の連携(83.3%)

と20項目中9項目あった。コロナ禍での教育活動で基礎学力の定着では評価が分かれ、自宅学習による反復学習で成果の出た学習意欲の高い生徒と学習の方法がわからず不安な生徒の二極化の評価であった。また、全体的に学校休校中の不安要素が結果から見取れた。

また否定的評価の割合について、昨年度との変化を見ると、

- ①コンピュータの活用(22.8%→17.1%)
- ②評価の在り方(20.6%→30.9%)
- ③保護者の教育活動への関わり(20.5%→24.2%)
- ④基礎学力の定着への取組(26.3%)
- ⑤生徒の地域行事への参加(22.0%)
- ⑥学校公開等の情報公開(94.3%)

と6項目あり、コロナの休校等による不安感が評価に表れていたと考える。引き続き教育活動を充実させていきたい。

3 今後の改善方策

- (1) **少人数指導・個に応じた指導の充実**…学力向上に関しては、保護者の関心が高く課題意識が他の項目に比べて高い数値である。区講師を活用した少人数による授業を充実させるとともに、一斉指導における個に応じた指導を丁寧に行うことを各教科で徹底し、更なる学力向上に努める。
- (2) **学校評価の在り方の改善**…昨年より生徒の学校評価を終え、その結果を保護者に提示して保護者アンケートに回答できるように実施した。保護者アンケートの回収は、コロナ禍で来校できる機会がほとんどなかったため評価の在り方について10ポイント下降した。また「分からない」と回答した割合が、11%から17%に増加した。コロナ禍での評価の在り方を実態に合った評価ができるように質問項目を変更し、改善する必要がある。
- (3) **新しい教育課題への対応**…ICT教育、道徳の教科化、特別支援教育等の本校の解決すべき教育課題を明確にし、その解決に努めるカリキュラムマネジメントを充実させる。

3月に各学校のホームページで公表していきます。